

かめだより

発行：医療法人鉄蕉会 亀田総合病院/地域医療支援部・地域医療連携室
発行責任者：亀田信介 編集責任者：唐鎌房子

〒296-8602 千葉県鴨川市東町929

TEL：04-7099-1261(内線7156)



index

- P2 … 看護部 認定看護師のご紹介
地域医療連携と亀田スマートホスピタル構想
～ ICT の利活用が地域医療を変える ～
- P3 … 超音波検査室のご紹介
- P4 … 地域医療機関さまより
- P5 … 当院診療科より
- P6 … 骨粗鬆症社会と向き合う
- P7 … スタッフひろば
マイブーム
- P8 … トピックス 勉強会・研修会スケジュール

看護部 認定看護師のご紹介



「訪問看護認定看護師の活動」

訪問看護認定看護師
佐々木真弓・田嶋ひろみ

地域で訪問看護を必要とする方は、小児から高齢者まで幅広い年齢で、長期に管理が必要な疾患や障害があり、住み慣れた地域で療養生活をしている方です。そのような方を対象に、疾病悪化予防や状態の安定に向けた管理や看取りまで、生活に視点を置いて幅広く総合的に判断し、ご本人や家族や関連職種と協働しながら看護を実践します。認定看護師とは、特定分野において専門性を発揮するスペシャリストですが、訪問看護認定看護師の場合、様々な疾患や年齢の在宅療養生活全体をアセスメントしてマネジメントするというところこそ、訪問看護認定看護師が発揮する専門性だと思います。

亀田総合病院では、訪問看護認定看護師は訪問看護ステーションに所属し、地域の医療機関の医師・看護師・理学療法士・栄養士・薬剤師や、ケアマネージャー、介護福祉士、介護施設の看護師等と、地域で暮らす方が安定した状態で生活ができる様に連携しながら看護実践をしています。また病院から退院後訪問看護を利用する方に対し、病院の看護師やMSWと退院調整のマネジメントも行います。

安房夷隅地域は、千葉県内でも高齢化率が30%台後半の市町村が多く、要介護認定者数、高齢者夫婦世帯・高齢者の一人暮らし世帯も年々増加傾向にあります。

高齢者は、複数の疾患を長期に管理している方が多く、在宅療養中に誤嚥性肺炎や心不全増悪など、日頃の管理で予防可能な病態を予防して悪化による入院を回避することは、生活の質を維持する為にも重要になります。誤嚥性肺炎や心不全増悪・尿路感染症などの発症リスクを把握して、悪化を予防するためのケアを、利用者や家族がセルフケアできる様に実践しています。また、自宅で人生の最終段階を過ごしたいと考えている方には、出来るだけ穏やかな日常を過ごしていただけるように、多職種チームで症状マネジメントを行います。その過程では、どこで、誰と、どのように過ごしたいか、そう思う背景にはどんなことがあるのか、話し合いを重ねています。

多職種連携推進の為、地域連携交流会などを通して、連携相手の顔が見えてきたと思います。これから各自治体が地域包括ケアシステムの充実を目指す中で、保険、医療、福祉の連携がより重要になりますが、今後の連携のあり方として、医療介護福祉相互の連携の深化が重要であると思います。そのために、地域で縦横無尽に活動する訪問看護認定看護師が、介護施設やサービス事業所の看護師の皆さんと、地域で生活する人々を通して、生活の安定に向けた看護連携を図っていきたいと考えます。保険・医療・福祉連携も大事ですが、まず看護師同士の連携を深化していきたいと思います。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

地域医療連携と亀田スマートホスピタル構想

～ ICTの利活用が地域医療を変える ～

シリーズ-5：電子カルテの更新と患者さまカルテ・医療情報連携 -2

医療法人鉄蕉会 情報管理本部 本部長 中後 淳

シリーズ-4までで亀田グループの電子カルテの更新と、患者さまカルテとして「NOBORI（ノボリ）」の紹介、地域医療連携システムとして「千年カルテ」の紹介、これからの亀田グループの情報戦略構想の紹介を行い、このシリーズは終了する予定でしたが、患者さまカルテと医療情報連携について計画の遅れもあり、シリーズ-5として改めて紹介することになりました。

すでにサービスを開始している患者さまカルテNOBORIは3月現在で利用者が700名を超え、亀田グループのすべての医療機関でサービスを展開できるよう事業を拡張しているところです。よりNOBORIを使っていただくための機能の拡張も進めています。患者さまがご自身やご家族のカルテを見るサービスに加え、今回の予約情報の確認や、病院からのお知らせ通知の機能がすでに追加され



メディカルレポート

超音波検査室のご紹介

医療技術部 超音波検査室 室長 小宮雅明

近年、日常診療や先端医療における超音波検査の重要性は増しており、検査領域の多様化、専門化が進んでいます。

超音波検査室は医療技術部に属し、クリニックや病院での超音波検査が主な業務となっていますが、健康管理センターでの超音波検査や採血、心電図、肺機能検査、聴力検査などの生理機能検査、視力検査、眼圧測定、眼底撮影などの眼科系検査も当室が担当しています。

超音波検査で担当する領域は、腹部領域、泌尿器領域、乳腺・甲状腺などの体表領域、頸動脈や上下肢の動静脈などの血管領域が主な担当領域ですが、最近ではこれらに加えてリウマチなどの病態評価のための関節エコーなど多岐に渡ります。これらの様々な検査依頼に適切に対応するために、各種学会・講習会に積極的に参加し、研究発表を奨励しています。また日本超音波学会認定の超音波検査士や血管診療技師・脳神経超音波検査士といった認定資格を積極的に取得し、質の高い検査結果が提供できるよう研鑽しています。日々の検査は、日本超音波医学会指導医の下、超音波検査士18名が中心となり、各診療

科と連携を取りながら的確で迅速な診断・治療を行っています。

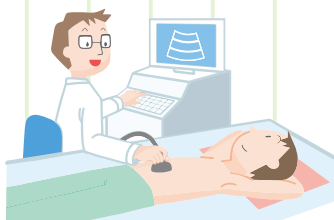
現在保有する超音波診断装置は、クリニック8台、病院4台、健康管理センター4台の合計14台で、全ての各装置にカラードプラ機能や高周波探触子を整備し、最新の技術を目指しています。また機器の精度管理のため、始業時点検・終業時点検、週点検、月点検、年1回のメーカー点検や自施設でもファントムを使用し画質の確認を実施しています。

2018年度の超音波件数は年間約38,000件で緊急検査や近隣の病院・クリニック等からの紹介にも迅速に対応させて頂いています。近隣の医療機関からご紹介頂いた超音波検査や胆嚢炎や閉塞性黄疸などの際に行われる超音波映像下穿刺、肝がんに対するラジオ波焼灼療法(RFA)なども医師と一緒に行っています。

今後とも地域の皆様に安心して安全な検査を受けて頂けるよう心掛けてまいります。

《2018年度》
超音波件数内訳 (概数)

腹部領域	22,000件
体表領域	14,000件
その他	2,000件
合計	38,000件



しました。夏ごろまでには亀田京橋クリニック・亀田IVFクリニック幕張で診察待ち時間を確認する機能が追加される予定です。さらにはNOBORIからキャッシュレスで会計を行う機能なども追加していく計画があり、患者さまへのサービス向上のアプリとしてNOBORIは進化していくと思います。

一方、地域医療連携システムとして活用予定だった千年カルテですが、未だ利用ができていません。これまで「共有カルテ」を使って地域医療連携を図ってきた関係者の皆さまには大変なご迷惑をおかけしており、本当に申し訳ございません。千年カルテは地域医療連携システムとして最小限の機能はあるのですが、亀田グループが使うためには様々な改良が必要であり、対応にはかなりの時間を要する

ことが分かりました。そこで地域医療連携システムを見直すために現在方向転換を図っています。

千年カルテは災害時の電子カルテ外部バックアップ機能として利用を継続し、地域医療連携システムは患者さまカルテNOBORIを改良して構築する方針です。8月頃までにシステムを稼働させるために現在準備を進めています。関係者の皆さまには随時情報共有していきますので、ご理解のほどお願い致します。

電子カルテ更新によりさまざまな新しい取り組みを進めています。[Do & Think]という亀田グループの精神で、考えながら失敗を恐れず実行に移し、患者さまや連携医療機関の皆さまと新しいサービスを創っていききたいと思います。

地域医療機関さまより



眞木クリニック

院長 眞木 寿之



私はこれまで大学で16年、亀田総合病院で14年間勤務した後、2002年6月17日に鴨川市江見に54歳で眞木クリニックを開院しました。当時江見は無医村状態で地域の住民からの要望に応える形でしたが、亡き父も隣の太海で開業医をしていたこともあり、父が経験した地域診療の軌跡をどうしても追跡したい想いが開業への原動力になりました。

これまで神経内科を専門領域としていましたが、家庭医として何でも内科、小外科、心療内科などを視野に入れて診療をスタートしました。診療機器はレ線撮影機、心電計、エコー（腹部、甲状腺、心）、スパイロメーター、パルスオキシメーター、耳鏡、鼻鏡、眼底鏡など。受付係2名、看護師2名。あとは30年間磨いた腕一本。“さあ、これでいくぞ”と意気込んだものの、開業資金を返却できるものと不安が胸をかすめたことを思い出します。今年、開院して18年目に入りました。これまでの心に残る思い出を振り返ってみたいと思います。

開院後の思い出深いエピソード

・開院早々に木から落下し、下腿を枝にひっかけて35cmの裂傷を負い、筋肉がとびだし、動脈性の出血がみられた患者
亀田総合病院への搬送を考えたが、筋膜等を縫合して無事終了。筋生検の経験が役に立つ。教訓：病院への搬送の是非の判断は微妙。今回、結果は是と出たが、非の場合も考えられるので。「送り医者にならないこと」という開院時のミッションの取り扱いは慎重に。

・心臓の裏に隠れた肺がん

開院早々にだるさを訴えて来院した患者の症例。検査から低塩症候群と診断。悪性疾患を精査。肺がんも疑い、2回胸部レ線撮影したが肺紋理の圧排像を読めず痛恨のミス。がんセンターで心陰影の裏に隠れた肺がんと診断され、手術を受けている。呼吸器疾患の経験不足が露呈。早速、単純胸部レ線像の読み方についてFelsonのChestRoentgenologyを古本屋で購入し、徹底的に読破。多くの肺がん患者および肺がん類似患者の早期発見に努める。教訓：弱点は克服しないと、いつまでも素人レベルから脱却できず、同じ過ちを繰り返す。



・風邪患者の見方

風邪症状に無頓着でどれでも同じと考えていた。小児科医に口腔内所見の違いから疾患を区別できることを学び、目からうろこ。鼻、咽、気道症状単独では風邪とは診断されないことを学ぶ（誰も教えてくれなかった風邪の見方、岸田直樹著）。
教訓：開業医は正確に風邪を診断できなくてはならない。

・高血圧の診療、特に季節で変動する高血圧

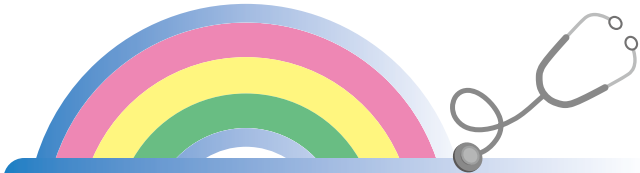
南房総の海岸周辺では小太りで赤ら顔の男性で高血圧、多血症を合併する症例が散見される。これらは**ガイスベック症候群**と呼ばれ、脳梗塞の危険因子としてすでに報告されている。当地域では実際大気中の塩分濃度が高いことや塩分の摂取過剰に加えてストレスがその一因であり、脳梗塞の危険因子として注目すべき病態であることを報告したことがある（CT/MRI時代の脳卒中学、Gaisbock症候群の治療と脳梗塞の予防対策）。
教訓：患者の様貌や血圧、ヘマトクリット値などからガイスベック症候群の存在を考えて脳梗塞の予防に努める。検診やドックにおいても予防策を考慮すべきである。季節の変動に伴い血圧がゆるやかに変動することは良く知られているが、時に予想もなく急激に血圧が上昇し、その要因に苦慮する。まず二次性高血圧を除外するが、当地域で**フキのシーズン**になるとこれを佃煮にして好んで食べる習慣がみられる。急に血圧が高く変動した患者さんに問うとしばしばフキを食べていると答える。私も試しに多めに食べてみると一時間過ぎたところから血圧が20～30mmHg上昇。フキの佃煮による塩分の過剰摂取が原因と考え、私は**フキ高血圧**とよんでいる。
教訓：地域における食生活の特殊性を考える。

・心療内科領域の患者の診療の難しさ

うつ病は内科医でも診ることができると言われている。とんでもない話である。うつ病を疑い初期治療を開始することはできるが、効果のなかった場合に次の一手を自信をもってどれだけの内科医が対処できるであろうか。また治療しても一向に効果がない場合にはどうするのか。留意すべきは双極性障害2型の長いうつ病期の症例に早く気付くことである（Mood Disorders, S. Nassir-Ghaemi）。私はこの問題にさんざん苦勞してきた。教訓：うつ症状を診断する際には**単極性うつ病**だけではなく、**双極性障害2型**の存在を頭に置く。その場合抗うつ剤でなくリチウムやバルプロ酸製剤が選択されるべきである。

最近では漢方に凝っています。講演会にも積極的に参加して楽しんでいます。西洋医学では疎かにされるような隙間の治療に極めて有効であり、その奥の深さに驚嘆します。

この春から息子が国立大学医学部に入学します。今後の生活に良いモチベーションになり、地域の方々、家族や自分の健康に留意して、さらに学びを楽しもうと考えております。



当院診療科より

呼吸器内科
部長 中島啓



亀田総合病院 呼吸器内科について紹介致します。当科は、南房総の呼吸器診療における基幹施設の役割を担っており、COPD・気管支喘息、肺炎、原発性肺がん、間質性肺炎から、睡眠時無呼吸症候群まで、あらゆる呼吸器疾患の診療を行い、外来・入院患者さまを受け入れております。

亀田クリニックでの外来診療は、月曜から土曜までの午前、および火曜の午後に行っています。予防的見地から禁煙外来を併設し、インフルエンザや肺炎球菌ワクチンの予防接種を積極的に推奨しています。気管支喘息・COPDにおいては服薬指導・管理を薬剤師と連携し、がんの化学療法は可能な限り外来化学療法センターで行っています。原発性肺がんを主とした胸部悪性腫瘍の診療は、呼吸器外科・腫瘍内科・放射線治療部・がん認定看護師と合同にてtumor boardを週1回行い、継続的に連携したチーム医療を実践しています。間質性肺炎は、指定難病の特発性肺線維症をはじめ複数の疾患がありますが、それらには当科のみならず、呼吸器外科・放射線科・病理診断科・リハビリテーション部門・リウマチ膠原病アレルギー内科と共同して、診断と治療を行っています。また、気管支鏡検査にも継続的に力を入れており、肺がん診療・気管支鏡責任者である大槻医長が主導となり、最新の診断・治療手技を導入し

ています。これまで仮想気管支鏡ナビゲーション、ガイドシース併用気管支腔内超音波断層法(EBUS-GS)、超音波気管支鏡ガイド下針生検(EBUS-TBNA)、局所麻酔下胸腔鏡、蛍光気管支鏡、光線力学的治療など最新の診断手技を導入してきました。2018年11月から、肺を凍結させて従来よりも大きな組織を採取する「クライオ生検」を導入し、間質性肺疾患の診断を主体に診療に役立てております。2018年度の呼吸器内視鏡検査の総件数は649件/年であり、国内トップクラスを誇ります。

[COPDの地域連携]

私中島は、亀田総合病院 呼吸器内科の診療責任者を務めると同時に、全国各地で呼吸診療に関する教育活動をプライマリケア医・若手医師向けに行っています。そして、2020年2月には、COPDに関する地域連携の研究会を立ち上げました。南房総における開業医の先生方との診療連携を強化することが目的です。COPD患者さまの診療は、地域の特性を踏まえた上で、かかりつけ医と専門医療機関の連携が重要とされています。診断や治療に難渋する症例については積極的に当科にご紹介して頂き、診断確定や治療方針の決定を行わせて頂きます。そして、状態が安定した患者さまについては、自宅に近いかかりつけ医の先生のもとに紹介させて頂きます。その後も、必要に応じて当科での専門的評価を継続するなど、円滑な診療連携を行わせて頂ければと考えております。

[間質性肺炎専門外来について]

2020年4月より伊藤部長代理が間質性肺炎の専門外来を開設しました。間質性肺炎は、胸部X線における下肺野の網状陰影や、胸部CTにおける蜂巢肺などを契機に発見されることの多い疾患です。指定難病である特発性肺線維症を初めとして、多岐にわたる疾患があり、治療方針も疾患によって異なります。呼吸器疾患の中でも、特に専門性の高い分野であり、当院における間質性肺炎診療向上のために専門外来を開設しました。開業医の先生方からの間質性肺炎紹介の窓口となり、早期に専門的な診断と治療につなげることを目的としています。間質性肺炎診療チームも立ち上げ、質の高い間質性肺炎診療を行っていきたいと考えております。

呼吸器道場 http://www.kameda.com/pr/pulmonary_medicine/

骨粗鬆症社会と向き合う



骨粗鬆症委員会 委員長
久保田基夫(脊椎脊髄外科)

皆さんこんにちは、亀田総合病院 脊椎脊髄外科 久保田基夫です。今回は骨粗鬆症委員会より「骨粗鬆症社会と向き合う」というお話をさせていただきます。

骨粗鬆症の概念と疫学

「骨粗鬆症」の概念が確立したのはそう昔の話ではありません。WHOで骨粗鬆症が定義されたのが1994年、わが国では1996年に診断基準が作成されました。高齢化社会を迎えてクローズアップされてきた疾患と言えます。

わが国の骨粗鬆症患者数は1,280万人(男性300万人、女性980万人)と推定されています。骨粗鬆症自体に特有な症状はありませんが、いったん骨折を来すと日常生活が制限され、寝たきりや要介護の原因となってしまう。厚生労働省の報告では寝たきりの約13%が転倒・骨折によるものでした。

骨粗鬆症治療の3つのポイント

1. 治療ターゲットを絞る。
2. 病態に合った薬剤を選択する。
3. ドロップアウトしないように経過観察する。

初発骨折予防(一次予防)

①50歳以上の女性(男性では65歳以上)に、②骨密度測定を含む検診を行い、③高リスク患者さまに薬物治療を導入するのが最も費用対効果が優れていると言われています。

再骨折予防(二次予防)

男女を問わず薬物治療がスタンダードです。

骨密度測定

DXA法が推奨されますが、その他の測定方法でもスクリーニングは可能。P1NP(骨形成マーカー)、TRACP(骨吸収マーカー)などの骨代謝マーカーが保険適応となりました。治療薬の選択や治療効果の判定に有用です。詳細は他誌に譲りますが、「適切な骨粗鬆症治療は骨折予防に有効であり、またトータルの医療コストも削減する」と報告されています。

椎体骨折の診断と治療

発症急性期には保存治療が有効です。鎮痛剤の投与だけではなく、病態にあったコルセットを作成してください。保存治療でも腰痛が改善しない場合には、骨折椎体に骨セメントを注入する手術(Balloon Kyphoplasty; BKP)が有効です。1時間ほどで終了する簡単な治療ですが、患者さまの満足度は80%以上です。骨変形が進行し神経を圧迫するようになると、下肢のしびれや歩行障害を来すようになります。これを「遅発性神経麻痺」と呼んでいます。固定術などの治療を行っても、対麻痺や排尿障害などの神経症状を残す可能性が高く、介護なしで生活するのは難しくなります。早期に治療を開始するほど良い結果が得られます。骨折を疑ったら早めに専門施設への受診をお勧めください。

リエゾンチームと地域医療連携

亀田総合病院では多職種で構成される「骨粗鬆症委員会(旧 骨粗鬆症リエゾンチーム)」を立ち上げ、啓蒙活動・地域医療連携などの活動を開始いたしました。

骨粗鬆症の治療対象となる患者さまは高齢で、長期の投薬治療が必要となりますが、足腰が弱く、またはお住まいが遠方のため、定期通院が困難な方が沢山いらっしゃいます。一施設のみで治療を完結するのは難しく、骨粗鬆症治療に関して医療連携を結んで下さる施設を募集しております。従来のように一方的に診療情報をお送りするというものではなく、患者さまの情報を共有しながら治療を継続してゆきたいと考えております。テレビ会議の導入や多施設間で共有できるデータベース作成を進めております。前向きにご検討いただければと存じます。

受診相談、講演依頼、地域医療連携、その他ご相談がございましたら、下記までお問い合わせ下さい。

亀田総合病院 診療部事務室

(脊椎脊髄外科担当 診療アシスタント 伊丹香代子)

TEL : 04-7092-2211, E-mail: spine@kameda.jp

facebook <https://www.facebook.com/kameda.spine/>

スタッフ ひろば

地域医療連携室
メンバーから

今回のご紹介内容

・氏名

- ①部署 / 職種
- ②好きなパスタ
- ③俳優の何役を演じたいですか



蔵本 浩一

- ①診療部
疼痛・緩和ケア科 医師
- ②トマト系
- ③刑事



大川 薫

- ①診療部 在宅診療科,
地域医療支援部 医師
- ②ゴルゴンゾーラ
- ③ルパン



草薙 洋

- ①診療部
消化器外科 医師
- ②マリナーラ
- ③ヒーロー役:いつも
そうだから



丸山 祝子

- ①看護管理部
助産師
- ②和風キノコパスタ
- ③金八先生のような
教師役



杉田 登子

- ①地域医療連携室
看護師
- ②ペペロンチーノ
- ③探偵役:サスペン
ス大好きだから



石井 俊一

- ①看護管理部
看護師
- ②ミートソース
- ③メンズナース:今ま
での経験が演技に
活用できるから



打野 弘子

- ①総合相談室
看護師
- ②昔ながらの
ナポリタン
- ③マルサ



吉野 有美子

- ①総合相談室
看護師
- ②バジルとトマト
の冷製パスタ
- ③くノ一(女忍者)



安室 修

- ①薬剤部
薬剤師
- ②カルボナーラ
- ③主人公の幼な
じみ役



鎌田 喜子

- ①総合相談室 MSW
- ②トマト系ペスカトー
レ・ウニのクリームパ
スタ
- ③食堂・居酒屋・小料理屋
の女将・バーテンダー



児玉 照光

- ①総合相談室
MSW
- ②ペペロンチーノ
- ③犯人役:ひたすら
逃げきってみたい



新田 静江

- ①亀田医療大学
教員(看護師)
- ②トマト味シーフー
ドスパゲッティ
- ③巷のおばさん



中村 雅代

- ①地域医療連携室
事務
- ②ナポリタン
- ③世界遺産めぐり
のレポーター役:
世界遺産に興味
があるから



林 裕子

- ①地域医療連携室
事務
- ②トマトパスタ
- ③戦隊ヒーロー
ピンク役



黒川 亜純

- ①地域医療連携室
事務
- ②ペペロンチーノ
- ③事件証言者その5:
何気ない一言で捜
査を進展させる地
味にオイシイ役



松井 陽

- ①地域医療連携室
事務
- ②ペスカトーレ
- ③ロングバケーション
の葉山南の役:本名で
ある「みなみ」と呼ば
れてみたいから。



生稲 秋穂

- ①地域医療連携室
事務
- ②たらこパスタ
- ③ペットショップの
店員:動物が好き
だから



大橋 洋子

- ①地域医療連携室
事務
- ②トマトとモッツアレ
ラのスパゲッティ
- ③忍者:情報収集した
り仲間と共に戦った
り、主の事件解決の
役に立ちたい



唐鎌 房子

- ①地域医療支援部
事務
- ②ナポリタン
- ③大富豪の奥様:
豪華な衣裳で贅
沢してわがまま
放題してみたい

亀田総合病院スタッフの
マイブーム

「ドッグラン」

念願のイヌを飼い始めた。飼い始めてちょっとしてから気になり始めたのが、ドッグラン。色々な所に、色々なタイプのものがあって、まだ実際に連れて行ったことはないけれど、うちのイヌもそろそろ連れて行って遊ばせてみたい。

ショッピングセンターのペットショップ内にある屋内のドッグランや高速道路のパーキング内のドッグラン、マザー牧場などのペット可施設のドッグランなどがある。ショッピングセンター内ドッグランはペットショップで買い物ついでに見学済みだけど、うちのイヌはなかなか、私たちのところから離れて走りまわる感じではなかった。高速道路パーキングのドッグランは、一番近くのパーキングの所でほかの利用者さんがいなかった

たので一緒にリードを付けたまま、お散歩のように通り抜けたことがある。最近は、人工芝で出来ていてきれいで遊具もある所があっていつか行ってみたいと思う。

そしてもう一つはペット同伴できる宿でドッグランを併設している宿もある。これもまた泊りの旅行と一緒に連れて行き遊ばせてあげたいと思う。ペットと泊まれる温泉付き宿とかもある。理想はふくらむばかりだけど、まだ1歳になったばかりで、まだまだ私たちの周りをピョンピョンしながら走り回っていて、果たして他のワンちゃん達とうまく遊べるのか不安もある。でも他のワンちゃんとのふれあいも大切なので一緒に遊ばせて、走り回る姿がみたい。今、一番行ってみたいのは、最近出来た道の駅内にあるドッグランとドッグカフェ。暖かくなったらドッグランデビューしたい。

ロイ・ローランド

勉強会・研修会スケジュール

今年度の勉強会・研修会のご案内及びご報告です。

【2019年度開催講演会・勉強会のご報告】

2019年度開催の講演会・勉強会に多くの皆様にご参加いただきました。ありがとうございました。

- ① 緩和ケア研修会 一集合研修 2019/4/6(土)
- ② ELNEC-J 2019/9/7(土)～8(日)
- ③ 安房地域看護勉強会
2019/8/23(金)・9/27(金)・12/6(金)
- ④ 夷隅地域看護勉強会
2019/11/14(木)・12/13(金)・2020/1/24(金)
- ⑤ マインドフルネス勉強会
2019/6/30(日)・8/31(土)・2020/1/19(日)
健康科学大学 井上ウィマラ先生
- ⑥ 地域医療連携交流会 2019/10/9(水)
南房総地域における医療情報連携を考える
～ツールの活用事例・災害時の備え～
エンブレース株式会社 見藤大先生
亀田総合病院 中後淳先生, 小倉健一先生
- ⑦ がん就労支援講演会 2019/10/19(土)
がんと診断されても働き続けるために ～知っておきたい事～
特定社会保険労務士 宮沢佳子先生
亀田総合病院 塚田麻実先生
- ⑧ 早期診断講演会 2019/11/1(金)
脾腫瘍の画像診断
～適切なタイミングで治療介入するために留意したいこと～
東京医科歯科大学医学部附属病院 岸野充浩先生
- ⑨ 放射線治療講演会 2019/11/7(木)
放射線治療の有害事象に対するセルフケア支援
船橋市立医療センター 益満陽子先生
- ⑩ がん化学療法講演会 2020/1/14(火)
治療期におけるがんサバイバーシップ支援
がん研究会有明病院 花出正美先生
- ⑪ がんゲノム医療講演会 2020/1/22(水)
がんゲノム医療と二次的所見への対応
東京医科歯科大学医学部附属病院 高嶺恵理子先生
- ⑫ がんのリハビリテーション講演会 2020/1/31(金)
がんの運動器診療 ―がん口コモとその対策―
順天堂大学 高木辰哉先生



①



②



⑤



⑥



⑦



⑧



⑨



⑩



⑪



⑫

*2020年度も開催情報をご案内いたします。是非ご参加ください。

【2020年度開催スケジュールについて】

2020年4月4日(土)でご案内しておりました「緩和ケア研修会 一集合研修」ですが延期となりました。2020年度中に改めて開催する予定です。詳細が決定しましたらご案内いたしますので、よろしくお願いいたします。